

## 会 議 録

会 議 名	第58回 野田市史編さん委員会会議
議題及び議題毎の 公開又は非公開の 別	1 副委員長の選出について（公開） 2 令和4年5月から令和5年4月までの活動状況について（公開） 3 令和5年度市史編さん事業計画及び予算について（公開）
日 時	令和5年5月19日（金） 午後1時30分から午後2時30分まで
場 所	市役所 2階 中会議室1・2
出席委員氏名	委員長 鈴木 有 委 員 飯塚ひとみ                      委 員 石田 年子 委 員 糸原 清                              委 員 上原 初江 委 員 上山 和雄                          委 員 北城 昭夫 委 員 下津谷達男                        委 員 杉山 一男 委 員 山下弘太郎                        委 員 染谷 篤 委 員 相浦 秀也                        委 員 戸邊 優美
欠席委員氏名	無し
事 務 局	大久保貞則（総務部長） 宮崎 等（総務部主幹(兼)市史編さん担当） 宮内友行（総務課主査(兼)市史編さん担当） 上符達紀（総務課主事補(兼)市史編さん担当）
傍 聴 者	2名
議 事	
<p style="text-align: center;">第58回 野田市史編さん委員会会議の会議結果（概要）は、次のとおり。</p> <p>1 委嘱書の交付                《委嘱書の交付・委員紹介》</p>	

## 2 委員長(市長)挨拶

宮崎主幹：市史編さん委員会の委員長、鈴木有野田市長より御挨拶を申し上げます。

鈴木委員長：大変お忙しい中第58回野田市史編さん委員会に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。日頃より皆様方には市政全般にわたり御指導・御協力、深い御理解を頂いておりますことに、重ねて御礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染症拡大が3年を過ぎ、4年目になったわけですが、5月8日から国ではインフルエンザと同じ扱い、2類から5類という位置付けに変更されました。ただ、インフルエンザと違うのは、季節性ではなく、一年中感染が広がるということであって、8日以降『東京都で今日何人感染し、何人重篤』というような報道もなくなり、減っているのかが分かりにくい状況ですが、まだ予断を許す状況ではないなというような気がします。そのような中、65歳以上の高齢者と基礎疾患のある方を優先的に、ワクチン接種が始まりました。皆様方にはしっかりと考えていただいて、感染対策に御協力いただければ有り難いと思います。

野田市は「夢のある住みよいまち」、「元気で明るい家庭を築けるまち」ということで『健康スポーツ文化都市宣言』をさせていただきました。健康が我々の一番の願いであって、まず健康が基本である。そのような中で、スポーツや文化活動を通して自分磨きをし、コミュニケーション、人とのふれあいが大事であると。特にこの3年間人とのふれあいができなかった。やはり健康を維持するために、人と会って話すこと、自分が好きなこと、スポーツや文化活動をすることによって、自分の体の健康を維持できるというふうに思い、宣言をさせていただきました。

さて、市史編さん事業におきましても、郷土に誇りを持ち、地域に根付いた人とのつながりを大切にしたい野田市を実現するために、野田市史として、郷土の歴史を収集・記録することが極めて重要であると考えております。今後とも、市民の皆様の御協力とともに、委員の皆様の御指導、またお知恵を拝借したく存じますので、よろしく願いいたします。

本日はよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

宮崎主幹：ありがとうございました。本日2名の方から、傍聴のお申出がありましたので、これを許可させていただきます。

それでは、次に議事に移らせていただきます。野田市史編さん委員会の設置条例の第6条により、委員長が議長となることが規定されておりますので、委員長に議長をお願いいたします。

### 3 議 題

議長(委員長)：しばらくの間、議長をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。議事に入らせていただきます。本日の議事につきましては3件用意させていただいております。

#### 1 副委員長の選出について

議長(委員長)：議事の「1 副委員長の選出について」を議題といたします。

市史編さん委員会設置条例では、副委員長は2人で、委員の互選となっております。選出方法につきましてはお諮りしたいところではございますが、指名推薦という形でさせていただければ有り難いと思っておりますが、いかがでしょうか。

- 副委員長(2名)の選出に対し1名の立候補があったため、互選方法について「立候補」によるか「指名推薦」によるかを諮った結果、多数決により「指名推薦」により選任することを決した。
- 前副委員長の下津谷委員・染谷委員に対する指名推薦があったため、両委員について諮った結果、下津谷委員・染谷委員を引き続き副委員長とすることを決した。

#### 2 令和4年5月から令和5年4月までの活動状況について

議長(委員長)：次に、議事「2 令和4年5月から令和5年4月までの活動状況について」、この時期の活動状況の報告について事務局より説明願います。

宮崎主幹：(別紙資料により、以下について説明)

(1) 市史編さん事業実績

(2) 各専門部会別の活動状況

議長(委員長)：ただ今の報告について、御質問又は御意見がございましたらお願いいたします。

相浦委員：興風図書館における新聞記事の調査があり、朝日新聞の千葉版昭和28年以降のものについて調査されたと伺いました。私は野田市の歌「野田市歌」について、平成になってから調べました。興風図書館が現在の場所ではなく梅屋さんの奥にあったときに、昭和25年当時の新聞がないか伺いましたら、文書箱の中に新聞の切り抜きが入っており、昭和25年8月30日の朝日新聞千葉版Aを見つけコピーを頂きました。

昨年その新聞の切り抜きを見たいと思い、司書の方にお話ししましたら「その新聞はありません。全部捨ててしまいました。」という回答でした。箱の中には昭和20年代の朝日新聞、他社の物も入っていたかもしれませんが、朝日新聞の昭和25年8月30日の新聞がありました。その代わりになるものを、県立中央図書館や国立国会図書館に問い合わせたところ「朝日新聞千葉版Bのマイクロフィルムはあるが、千葉版Aというものは、全国どこにもありませんでした。」という回答を頂きました。

恐らく、興風会図書館の時代に切り抜き、市に移管された段階でも保管していたのですが、なくなったのは大変残念です。こういうケースは他にもあると思いますので、処分をするようなことがあれば、市史編さん担当に連絡するように徹底したらいかかと思いました。

議長(委員長)：御意見ということで。

相浦委員：はい。

議長(委員長)：ありがとうございます。他にございますか。

戸邊委員：本日、昨年の調査・原稿の執筆作業の状況について御説明いただき、市史編さん委員会の編制図を事前に御説明いただきました。私自身が民俗を専門としており、現在検討されている章立てでは「日常生活」「社会生活」を中心に章立てが練られていて、「生業」や「工芸」、あるいは社会的要請が強くなってきていると思われる「祭り」や「芸能」など、観光にも直結していくものが章立てから見えないのが気になりました。インバウンドの要請など、今後市史が重要なものになっていくと思われる。もしかする

と、民俗以外でそういったものを補われるのかとも思われるのですが、気になったので提案させていただきます。

議長(委員長)：御意見として頂戴いたします。他にございますか。

相浦委員：野田市立興風図書館には、CD-ROMで1998年10月に作りました『野田市ふるさとの伝承電子図鑑』がありました。端末機で検索して見ることができたのですが、パソコンのシステムが良くなり、現在は見ることはできません。CDやDVD、VHSのビデオテープは貸出しをしているのですが、このCD-ROMは、登録には入っているが貸出しをしていません。『野田市ふるさとの伝承電子図鑑』は野田市立興風図書館と野田市郷土博物館が数年かけて作ったもので、野田市市制施行40周年記念で発行した『遠ざかる風景』に入らなかった写真も入っているのですが、市民は見るができなくなっております。是非、市民にもまた見られるようにすれば、市史編さん事業の中でも活用できると思うのです。

もう一点が、昨年度より野田市立図書館は、野田市民が千葉県外の図書館から本を取り寄せる場合など、1年間で1人12冊までと制限されております。これでは野田市民は国立国会図書館の本を自由に取り寄せて調べることができないのです。市史編さん事業で是非、今発表があったように、調査をどんどん進めていただいて、是非それをまとめて早く市民にその結果を見せていただきたいと思います。野田市民ではもう調査をすることが非常に難しくなっているのが現状です。どうぞよろしく願います。

議長(委員長)：ありがとうございます。図書館の運営の関係ですので、こちらの方から話をさせていただきます。

相浦委員：よろしく願います。

議長(委員長)：他にございますか。それではないようですので、この件につきましては御了承願います。

委員：(委員承認)

### 3 令和5年度市史編さん事業計画及び予算について

議長(委員長)：次に、議事の「3 令和5年度市史編さん事業計画及び予算について」でございます。この件につきまして、事務局の説明を願います。

宮崎主幹：（別紙1及び会議次第により、以下について説明）

- (1) 令和5年度市史編さん関係予算の説明
  - (2) 令和5年度の各部会別事業計画について
  - (3) その他の事業について
- ①「野田市史研究」(第34号)の刊行
  - ②市史講演会の開催について

議長(委員長)：ただ今の説明につきまして、御質問並びに御意見ございましたらお願いいたします。

相浦委員：市史講演会と『野田市史研究』第34号の説明を伺いまして御意見申し上げます。お尋ねしたいことがございます。

まず、市史講演会でございますが、講演の内容は、その会場に行かないと分かる機会がありません。もし、できましたら、今後『野田市史研究』に講演した内容を載せていただければと、常々思っております。

もう一点は、『野田市史研究』に最近市民からの研究レポートが載っておりません。今後、市民からの研究レポートを載せる予定はないのでしょうか。市井の研究・調査をされている方のためにも、『野田市史研究』に載せるという目的があれば、調査・研究に張合いがありますので、発表する機会を市民にも与えていただければと思います。

議長(委員長)：その点について事務局。

宮崎主幹：まず、講演会の内容の公表については、講演の前に講師の方と打ち合わせを行って、ダイジェスト版で載せるなどを協議した上でないと難しいと思いますので、全てについて載せられるということではございませんが、今後検討させていただきたいと思います。

『通史編』や『資料編』の刊行が始まった段階で、市町村の場合ですと『研究誌』などの刊行を休止するということも多くございます。以前、この委員会に「『野田市史研究』を休止し、『資料編』等に専念するような形はどうでしょうか。」とお諮りしたことがございます。そのときに、市史の刊行物は毎年できるものではないので、1編でも2編でも良いから収録した『野田市史研究』の刊行は続けるようにとの御指示がございました。

『野田市史研究』には、市史の刊行に伴って調査されたこと、あるいは

それに関わることといった形で依頼した原稿を載せるということで、（現在は）投稿原稿をお受けする形ではございません。野田市郷土博物館では（同館刊行の『年報・紀要』）投稿原稿の規定がございまして、市民の方の投稿原稿を受けていますので、投稿をお考えであれば郷土博物館の投稿規約を御検討いただければと思います。

相浦委員：ありがとうございました。

議長(委員長)：よろしいですか。ないようでしたら御了承願います。

委員：（委員承認）

議長(委員長)：最後に何か発言等ありましたらお願いいたします。

相浦委員：刊行計画は、第二次の市史編さん事業が始まって、途中で関宿町との合併があつて見直しをされ、現在に至っております。約30数年の間に、デジタル化が急激に進んでおります。現在のところ、紙による出版の計画だけが検討されていますが、デジタル化に対しても対策を今後考える必要があると私は思っております。例えば、野田市の組織では、総務課で発行していた『野田市例規類集』も令和3年からデジタル化し本はできておりません。消防署から出ている『消防白書』（『消防年報』）も令和2年からデジタル化して紙では出ておりません。『野田市立図書館白書』（『野田市立図書館概要』）についても同様で、現在はパソコンやスマートフォンで見ることで、紙に印刷したものはございません。

野田市のホームページは今年の3月1日に、スマートフォンで見やすい新公式ホームページにリニューアルになったのですが、そこにはこのようなことが書いてありました。野田市で実態調査をしたところ、スマートフォンやタブレットで（野田市のホームページを）見る方が80%、パソコンで見る人が20%。それに対応し、スマートフォン対応の市公式ホームページにリニューアルしました。ということが書かれています。携帯電話もスマートフォンに切り換えつつあり、そこから野田市史の本も見ることができるとなれば、いつでもどこでも野田市史の本が見えるようになると思っております。

今後『通史編』や『年表』等を出す際に、デジタル化についてどうしていくかということ、この編さん事業の中で考えていただければ大変便利になるのではないかと考えております。

議長(委員長)：それについては御意見としていただいて、まず担当者レベルで検討させていただきます。

相浦委員：よろしくをお願いします。

議長(委員長)：他にございますか。

委員：(委員からの意見・質問等無し)

議長(委員長)：それでは以上で議事を終了し、進行事務局の方に戻させていただきます。御協力ありがとうございました。

宮崎主幹：以上をもちまして、第58回野田市史編さん委員会を閉会いたします。委員の皆様には長時間にわたり御審議をいただきまして、ありがとうございました。